

# 伝え合う力を高める言語活動の工夫

黒川 陸郎  
国語科 岡崎 和美  
端名 秀雄  
石田 明美

## 1. 「言語に関する能力」および「説明」に関する現状と今年度の研究テーマ設定の理由

本校の生徒は、全般的に「書く」能力は高いが、「話す」能力は個人差が大きく、相手やその場に合わせて、考えながら臨機応変に適切に話すという力は低いように思われる。例えば、日頃の授業の様子を見てみると、スピーチをするときに事前に準備した原稿を丸暗記して話そうとしたり、自分や班の考えを説明するのに書いたものだけをそのまま読み上げたりする生徒が少なくない。

「説明力」を育成する授業を構想・実践する際には、文字言語による説明力（書く力）と音声言語による説明力（話す力）に分けて考える必要があるが、本校生徒の実態を考えると、話す力を高める授業のあり方を工夫していかなければならない。

学習指導要領の国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」である。

国語科における日々の授業を振り返ると、様々な場面で「説明する」活動が行われている。しかし、自分の説明した事柄がどれだけ相手に伝わっているかを検証するということはあまりやってこなかったのではないだろうか。ただ単に正確に伝えるというだけではなく、相手の立場や考えを尊重しながら伝えることも大切である。また、話し手（書き手）だけでなく、聞き手（読み手）の姿勢も考えていかなければならない。前述したように、本校生徒は「話す力」に課題がある。そこで、「伝え合う力を高める言語活動の工夫」というテーマを設定し、今年度は「話すこと・聞くこと」の領域を中心に研究を進めていくことにした。そして、3学年共通の題材で10月と2月に2種類の言語活動を実践した。

## 2. 国語科における「説明」という言語活動Ⅰ

研究の第一段階として、3学年とも同じ指導案で「説明」をキーワードに授業実践することにした。話す力については、個々人の能力の差も大きいと思われるが、各学年の発達段階における違いにも目を向けてみたいと考えたからである。「説明」という言語活動をする上で、誰に何について説明するのか、「相手」と「説明する内容」が問題となってくる。また、生徒が説明したいと興味・関心をもつ内容でなければならない。

1時間扱いのできる題材として「分かりやすく話そう」（東京書籍1年）を参考にした。同級生を相手に、与えられた絵をその通りに描いてもらえるよう説明するという課題を設定し、聞き手に伝えたいことを分かりやすく話すための要点を見つけることもねらいとした。お互いの授業を参観できるように、授業日とクラスを調整し、2年、1年、3年の順で授業を行った。その際、授業の流れの大筋は変えずに、生徒の反応を見ながら少しずつ指導案を修正して行った。

（金沢大学附属中学校 中間研究意見交換会 資料集(平成22年11月) 参照)

### 3. 国語科における「説明」という言語活動Ⅱ

国語科として取り組んだ前回の「説明する」活動は、数種類の絵を題材とし、同学年の生徒を説明する対象としたものであった。

活動の結果、説明の基本的なパターンとして、学年を問わず絵を図形的にとらえて説明する「図形的な説明のしかた」や、絵をある物の形に例えて説明する「比喻を用いた説明のしかた」が多かった。

1 1月の中間研究報告会では「絵としてどこまで詳細な説明を求めるのか」という意見も出されたが、題材としてははっきりとした形のあるもので、視覚的な説明を求められるものであった。

また、各学年で同じ題材を取り上げて違いを見ようとしたことに対しては興味深い実践であるという評価もいただいた。それとともに、何かを説明する際にはどのような相手に対してどのように説明するのかという「相手意識」が必要であるということも話題になった。

同学年どうしだと、説明する相手はその事柄についてどの程度の知識・理解があるのかがある程度分かっている場合が多い。つまり相手意識をさほどもつ必要がないということになる。

しかし、通常物事を説明する場合には、それを説明する相手がどのような相手なのか、つまりそのことについてどの程度認識しているのかということ意識して説明のしかたを工夫したりせざるを得ない。

そこで今回の活動では1年生と3年生という異学年を半数（二十人）ずつ組み合わせて合同で授業を実施し、相互に説明させてみることにした。中間学年の2年生は今回も同一学年単独で実施した。3年生は1年生に対して歌の内容をわかりやすく説明することをねらいとし、1年生は3年生に対して自分たちなりの歌の解釈を理由を添えてきちんと説明できるということをねらいとした。また、2年生はそれぞれの歌に対するイメージをいかに相手に分かりやすく説明するかということもねらいとした。

題材は俵万智の短歌である。前回の題材が視覚的なものであったので、今回は形のないもの、しかも感性を問われるものをいかに説明するかを問う実践を試みた。

歌の内容としては「恋」をテーマにしたものを選んだ。（ワークシート参照）思春期まっただ中の3年生には興味・関心をもちやすく、理解が容易であろうと考えた。逆に1年生にはやや難解な内容のものもあると思われたが、1年生なりの素直な解釈ができればよいと考えた。2年生は同学年内でも内容の理解度に個人差が大きいことが予想された。

2・3年生は国語科の授業で短歌を学習し、3年生は俵万智の作品にもふれている。1年生も既に授業で短歌の自作も経験している。

歌は途中の言葉を抜いたものを提示し、抜いた言葉を説明のポイントとした。その言葉が何かを考えることが歌のイメージを広げることにもなると思われたし、漠然と歌の内容を説明するよりも、キーワードが何と考えたかを中心に説明する方が、思い描いた歌のイメージの違いが明確になると考えたからである。

発表の手順として、まずは一人ひとりにワークシートを配布し、自分の班に割り当てられた歌の空白部分にあてはまる言葉を考えさせた。次に4人班を作り、それぞれが自分の考えた言葉について意見交換し、班としての言葉を一つ決めさせた。（あらかじめ班を作る4人には同じ歌を割り当てた。また、学年差を比較するため、1年生・3年生の合同授業では1年生、3年生それぞれ一班ずつに同じ歌を割り当てた。）

それから1年生と3年生各班の代表交互に、あてはめた言葉とその理由を発表させた。5つの歌の発表が終わった後で、教師がオリジナルの言葉を紹介した。最後に、活動の振り返り（「説明する」ということを中心に）をさせた。それらをもとにした学年毎の考察を後述する。

「論理的ではなく感覚的で難しかった」という3年生の声もあったが、実生活で説明する対象としては、さまざまなものが想定されるのである。

3年生・1年生 交流授業 国語科 学習指導案

2011年2月17日(木)

第5限 1年3組・3年4組教室

第6限 1年2組・3年3組教室

指導者 端名 秀雄

岡崎 和美

1. 単元名 短歌の世界を伝えよう(俵 万智)
2. 目標
  - ・俵万智の短歌に触れ、キーワードを手がかりに歌のイメージを広げることができる。
  - ・自分がイメージした歌の世界を、相手に説明することができる。
3. 評価の観点及び基準
  - ①関心・意欲・態度  
短歌の内容に関心を持ち、意欲的にワークシートに記入している。
  - ②話す能力  
短歌のイメージを、話し言葉で適切に表現して説明している。

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点 評価基準及び方法 ☆	時間
1. 本時の目標を聞く。	・ワークシートの短歌(俵万智)について、歌の内容や作者の状況を考えることを伝える。	2
2. 短歌①～⑤を読む。	・短歌の言葉を抜いた部分についてイメージをもたせながら教師が音読する。	3
3. ワークシートの短歌の空白の部分にふさわしい言葉を考えてあてはめ、なぜその言葉を入れたのかを文章でまとめる。	・短歌①～⑤の鑑賞のポイント(抜いた言葉)の手がかりを伝える。  ☆①観察 ①順番 ②始まりの言葉 ③いつ ④数量 ⑤比喻の内容	10
4. 4人グループでそれぞれが入れた言葉を伝えあい、グループ内で意見を一つにまとめる。	・1年生4人、3年生4人のグループを5つずつ作り、同じ歌を各学年1班ずつ2つの班に割り当てる。	10
5. グループの代表が、言葉とそれを入れた理由を全体に説明する。他の班の発表を聞く。	・1つの歌に2人ずつ、10人に発表させる。特に抜いた言葉については他の生徒の意見も聞き、歌のイメージをふくらませるとともに、本歌の言葉も知らせる。  ☆②聞き取り	20
6. 活動の感想を書く。	・他学年や他の班からの意見も踏まえて、活動の振り返りをする。  ・ワークシートを回収する。  ☆①ワークシートチェック	5

## 2年生 国語科 学習指導案

2011年2月28日(月) 第3限 2年4組教室  
 第4限 2年3組教室  
 2011年3月8日(火) 第3限 2年1組教室  
 第4限 2年2組教室  
 指導者 石田 明美

1. 単元名 短歌の世界を伝えよう (俵 万智)
2. ねらい
  - ・俵万智の短歌に触れ、キーワードを手がかりに歌のイメージを広げることができる。
  - ・自分がイメージした歌の世界を、相手に説明することができる。
3. 評価の観点及び基準
  - ①関心・意欲・態度  
短歌の内容に関心を持ち、意欲的にワークシートに記入している。
  - ②話す能力・聞く能力  
短歌のイメージを、話し言葉で適切に表現して説明している。

### 4. 学習の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援及び留意点 評価基準及び方法 ☆	時間
1. 本時の学習内容と目標をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの短歌(俵万智)について、歌の内容や作者の状況を考えることを伝える。</li> <li>・自分がイメージした歌の世界を、いかに相手に分かりやすく説明するかが本時の目標であることを強調する。</li> </ul>	2
2. 短歌A～Eを読み、歌の世界をイメージする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の言葉を抜いた部分についてイメージをもたせながら教師が音読する。</li> <li>・( )にははまる言葉の字数を確認させる。</li> </ul>	3
3. ワークシートの短歌の( )の部分にふさわしい言葉を考え、あてはめ、なぜその言葉を入れたのか理由を文章でまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌A～Eの鑑賞のポイント(抜いた言葉)の手がかりを伝える。                      ☆①観察                      A 順番                      B 始まりの言葉                      C いつ                      D 数量                      E 比喩の内容</li> </ul>	10
4. 4人グループでそれぞれが入れた言葉を伝え合い、グループ内で意見を一つにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人のグループを10作り、同じ歌を2つの班に割り当てる。</li> <li>・どうしてもまとまらない場合は、複数の意見を発表してもよいことにする。</li> </ul>	10
5. グループの代表が、言葉とそれを入れた理由を全体に説明する。他の班の発表を聞き、説明のしかたの上手な点をメモする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの歌に2人ずつ、10人に発表させる。</li> <li>・特に抜いた言葉については他の生徒の意見も聞き、歌のイメージをふくらませるとともに、本歌の言葉も知らせる。                      ☆②聞き取り</li> </ul>	20
6. 「説明する」ということを中心に活動の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明する」ということを中心に、だれのどんな説明のしかたが分かりやすく、歌の世界のイメージが広がったか活動の振り返りをさせる。                      ☆①ワークシートチェック</li> </ul>	5



班代表の説明

A まっさきに気がついて君からの手紙いちばん(最後)にあける

1年3組 私たちの班は「最後」という言葉を入れました。理由はたぶん君っていうのは特別視しているから、作った人の好きな人だから、あとで、思いにふけりたいうか、楽しみを先にとるんじゃないくて、最後に楽しみたいからとおもったから「最後」を入れました。

1年2組 僕たちは最後という言葉を選んでこれはまっ先という言葉と対比させて、君の手紙を楽しみにしながら他の人の手紙を読んで、一番最後に君の手紙をじっくりと読むのではないかと考えたから「最後」という言葉を入れました。

B 『(あい)』という言葉で始まる五十音だから傷つくつくつくぼうし

1年3組 「あい」にしたのは五十音の最初が「あい」だからです。

1年2組 「あい」にした理由は、「あい」は五十音の一番初めの二文字だから、また、「愛」ともとらえられるから「あい」にしました。

C 手紙には愛あふれたりその愛は(消印)の日のそのときの愛

1年3組 「告白」を入れたのは、この詩には「手紙」とか「愛」とか言う言葉があるので、たぶんこの筆者はラブレターをもらっんじゃないかなと思いました。だから「告白」という言葉を入れました。

1年2組 僕たちは「初恋」という言葉にして、理由はたぶん字数からいって4文字だと思ったのと、手紙をもらったときの喜びと初恋の人の喜びは似ているんじゃないかと思ったので「初恋」にしました。

D 「嫁さんになれよ」だなんてカンチュウハイ(二本)で言ってしまっているの

1年3組 一本にしました。それは、二人がいて、缶チューハイを一本飲み終えて、まだ結婚のことをじっくり考えてもいないのに、相手に思いをすぐ伝えられたってということかと思います。女の方がもっとじっくり考えたい、という思いです。

1年2組 私たちは「二本」という言葉を入れました。それは、考えてもよく分からなかったのに、3音というヒントと数量という言葉で元「二本」を入れました。

E きつくきつく我の鋳型をとるように君は最後の(抱擁)をする

1年3組 抱擁にしました。きつくきつく君は最後「われの鋳型をとるように」を一回除いてみると、きつくきつく君は最後の抱擁をするとなって、相手が自分のことを抱きしめているとかがえられて、しっかりと抱きしめているのではないかなと思いました。

1年2組 「かたぬき」にしたのは、作者の知り合いが死にそうだということを思って「鋳型」というところから「かたぬき」という言葉にしました。

### 1年生の感想（「説明する」ということを中心に）（ ）内は選んだ歌の記号

- ・3年生は僕たちと同じ意見だったけど、理由の説明が違っていて、僕以上に短歌を深く読んで考えているんだと感じた。(A)
- ・3年生の説明は、作者の気持ち、考えていることを感じ取って、作者になったようにしていたので、考え方が違うなあ、と思いました。(D)
- ・1年生の発表は直感からの想像、3年生は論理的な分析思考をしていた。(A)
- ・自分の発表はみんなの方を見ていなかったし、声も小さく説明が不十分だったのでだめだった。(E)

### 3年生の感想（「説明する」ということを中心に）（ ）内は選んだ歌の記号

- ・どのような情景を浮かべたということを説明すると皆に納得してもらいやすくなると思った。(A)
- ・他学年の前で説明するというこゝでとても緊張したし、言い方にもとても気を配った。いかに分かりやすく説明するかを最も意識した。(E)
- ・歳が違う人に説明するのは言葉を選ばなくてはならないので大変でした。(E)

### 考察

1年生、3年生ともに、おおむね説明は「〇〇だと思った。それは～だからだ。」という形であったが、理由の説明の内容と言葉づかい、態度の違いが見られた。

説明の内容については、1年生が短歌を見て感じたことからの解答と理由であったのに比べ、3年生では短歌に詠まれた背景、情景とそのときの作者の気持ちを想像して説明したものが多い。1年生の感想にも「3年生の説明では作者の気持ちが入っていたり、筋が通っていたりしてわかりやすかった」とある。

例) 抱擁にしました。二度と会えなくなってしまう二人が、最後の日に、相手のことを決して忘れないように最後にもう一度抱きしめ合おうという感じで抱きしめ合ったという感じの詩だと思います。  
きつくわれの鋳型をとるよにというところが抱擁だとおもいました。(3年)

このほか3年生には短歌の表現技法等に触れたものもあり、短歌に対する知識、読み取りの深さの違いがわかる。また、「恋の歌」という意識がない生徒が1年生には多少見られ、2年間の成長、経験の差が感じられた。

発表態度では「3年生はもじもじせず、はきはきしていた」「相手を見て話していた」との意見が出た。3年生も緊張はしていたようだが、1年生に対し、いかに分かりやすく説明するかを意識し、言い方には気を配ったという意見があった。また、言葉づかいでは3年生の説明によって言葉の選び方や新しい言葉を知った生徒が少なくなかった。1年生にとっては、年上の人の説明を聞くことで説明の仕方に学ぶことが多いと思われる。

3年生に対する説明では、丁寧な言葉づかい、態度を意識したという生徒が多かった。その他、「自分たちのほうが知っていることは少ないので、知ったかぶりせず自分が確実に知っている言葉を使って明確に話すようにしたい」という意見があった。年上に対する説明は、失礼にならない態度で、自分の考えが正確に伝わるように話すことが大切であると思われる。それらが相手から見て拙いものであっても、その時点で最大限のものになるよう、日々の指導、学習が必要である。また、上述したように、3年生の説明に刺激を受けた生徒が多かったようである。他学年との交流により、より説明することへの意識、方法が向上するのではないか。

班代表の説明

A まっさきに気がついている君からの手紙いちばん(最後)にあける

- 1年 グループの中でいちばん最初に開けるって人が多かったからです。心情的に最初に開けるって人が多かったから「最初」にしました。
- 3年 私たちは「最後」という言葉を当てはめたんですけど、最初の「まっさき」っていう言葉にわざと相対する言葉をあてはめることで短歌におもしろみが出るんじゃないかなと思います。

B 『(あい)』という言葉で始まる五十音だから傷つくつくつくぼうし

- 1年 「五十音」とあるので まず五十音の始まりはあいうえおで、五・七・五・七・七の区切りからみるとこのカッコの中には二文字しか入らないので「愛」にしました。そして「傷つくつくつくぼうし」とあるので、こういうのは恋愛に絡んでいるのではないかと考えたので「愛」を入れました。
- 3年 さっきの1年生と同じで「愛」なんですけど、それに付け加えて、つくつくぼうしは「つくつくぼうし」としか鳴かないので、「つくつくぼうし」という言葉以外は発しません。自分は「つくつくぼうし」としかしゃべれないから愛を表現する言葉を話すことができないので傷つきます。

C 手紙には愛あふれたりその愛は(消印)の日のそのときの愛

- 1年 あとの文字から考えてここは4文字ということがわかったので「愛」っていう言葉があって「手紙」っていうのがあったので、班ではラブレターみたいな感じで、渡すのは告白みたいな感じで、「告白」になりました。
- 3年 愛を伝えるには手紙とかそういうの使ったりするし、手紙だったら告白ってきたので、告白の日と違って印象深いから手紙に愛があふれててってなったら「告白」かなって考えました。

D 「嫁さんになれよ」だなんてカンチュウハイ(二本)で言ってしまっているの

- 1年 この歌の前後で中に入るのは3文字っていうことがわかって、それで「言ってしまっているの」だからカンチュウハイをたくさん飲んだらそういう勢いで言ってしまって受け流せるけど、三口とか一口ぐらいだったら本気なんじゃないかみたいな感じ。それで「三口」にしました。
- 3年 「一杯」にした理由は、カンチュウハイを飲んで一杯飲んでから一言で言い切る様子をイメージしたから。(本当に自分に迷いなく言ってしまっているのかっていう自信がないところを言っている。最初の一杯だけで決めてしまうみたいな。)

E きつくきつく私の鋳型をとるように君は最後の(抱擁)をする

- 1年 「抱擁」は抱きしめる感じになるから包み込む感じに鋳型を組むと思って「抱擁」にしました。
- 3年 「きつくきつく」互いのことを一生忘れないようにしている感じだから「抱擁」にしました。



### 3年生の感想（「説明すると」いうことを中心に）（ ）内は選んだ歌の記号

- ・短歌みたいなものは感覚的だし、論理的でないので、他の人に分かってもらえるようにある言葉をうまく使って表現し説明するのは難しいことだなと思った。(D)
- ・歌の語数は限られているので、その中からヒントを探し、根拠としてみんなに説明するのは難しく、とても大変だった。そのうえ歌は作者の主観的なことが多く、みんなに納得してもらえないような気もしてドキドキしました。(D 説明者)
- ・自分の考えを万人に説明するという事は、全員を納得させなければならないので、論理的に述べる必要があるので難しい。(A)
- ・短歌の中のどの言葉から何を連想したかを伝えることが大切だと分かった。(E)
- ・人に根拠とかを説明するって難しいと思った。自分の感性とかって伝えても理解してもらえないかもしれないし、具体的に伝えるのは苦勞する。(C)

### 1年生の感想（「説明すると」いうことを中心に）（ ）内は選んだ歌の記号

- ・初めて見る短歌だったからとまどいました。まったく説明できませんでした。どう説明したらよいかとまどって言えなかった。(D)
- ・説明するとき考えた言葉はあっても、理由が全然思い浮かばなくて大変だった。(A)
- ・短歌全体の意味を聞かれると説明するのが大変でした。あと、自分で体験したことの無いエピソードについて詠まれているとなかなか考えつきませんでした。(B 説明者)
- ・どうしてその言葉にしたかという理由を書くのにどうやったら相手に伝わるかということを考えてたりするのが難しかった。(B)

### 考察

3年生は活動の振り返り（「説明すると」いうことを中心に）の中で、「根拠」「論理的」「感性」「感覚」「主観的」という言葉を用いているものがみられた。それらをまとめると、今回の活動は彼らにとっては「感性」が問われるものであり、具体的な「根拠」をあげて「論理的」に説明することが難しかった」ということになる。確かに、具体的な形のあった前回の課題に比べると形のない抽象的な課題であった。

それに対して1年生は、「言葉は思い浮かんでもその理由が浮かばない」であるとか、「自分で体験したことの無いエピソードについて詠まれているとなかなか考えつかなかった」とか、「短歌全体の意味を聞かれると説明するのが大変だった」などというように、「恋」をテーマにした歌の理解に苦勞しているという面が見られた。また、「グループの中でいちばん最初に開けるって人が多かったからです。」というように、いかにも子供らしい発想の説明もあった。しかし、「五・七・五・七・七の区切りからみるとこのカッコの中には二文字しか入らないので」であるとか、「あとの文字から考えてここは4文字ということがわかったので」などというように、内容は十分理解できないものの、歌の内容よりも形に注目して何とか考えようとしている姿勢がみられた。

3年生の説明には、「最初の「まっさき」っていう言葉にわざと相対する言葉をあてはめることで短歌におもしろみが出るんじゃないかなと思います」（答えは「最後」）というように、歌の他の部分の内容にも触れた説明もみられた。また、「さっきの1年生と同じで「あい」なんですけど、それに付け加えて……」というように1年生の説明した内容を受けて、そこからさらに内容を一段深く掘り下げた説明をするところもあった。このように、どちらかといえば歌の形式を手がかりにして説明しようとする1年生に対して、歌の内容全体を踏まえて当てはめた言葉を解説しようとしていたのが3年生ということがいえそうである。

## 班代表の説明

A まっさきに気がついている君からの手紙いちばん(最後)にあける

- ・私たちの班は「はじめ」だと思うんですけど、なぜかという最初にその手紙を開けるという意味と恥じらいという意味をかねてしたんだと思います。
- ・私たちの班では2つの意見がでました。まず「最初」という意見があり、それは友人など大切な人からきた手紙にまっさきに気がつき、最初に読みたくなるという考えからです。また、「最後」という考えもあり、それは大切な人からの手紙、楽しみは最後にとっておくということからです。また、最後という意見では、最初だったら初めという言葉も考えられるんじゃないかという考えもありました。

B 『(あい)』という言葉で始まる五十音だから傷つくつくつくぼうし

- ・五十音の言葉から始まるということで、「あい」という言葉がでてきて、それでつくつくぼうしが傷つくというのは、つくつくぼうしというのはせみだから、せみは長生きができなくて愛につくすことができないということにかけて、それが話になっている。
- ・「あい」なんですけど、理由はまず「～という言葉で始まるで五十音」から、始まりはあいうえおの「あ」と「い」なんで「愛」で、この5つの短歌は恋愛の歌なんで「愛」だと思いました。

C 手紙には愛あふれたりその愛は(消印)の日のそのときの愛

- ・僕たちの班では「そのとき」というのが入って、理由は「そのときの愛」っていうのを繰り返して使うように書いたんだと思うからです。
- ・僕たちは「さよなら」って入れて、「そのときの愛」ということから今はない感情ということがわかり、感情を持っていた日の手紙を読んでしみじみとしている場面ではないかということから考えました。

D 「嫁さんになれよ」だなんてカンチュウハイ(二本)で言ってしまうていいの

- ・私たちは「二杯」だと思っています。それは返事の「はい」と2杯の「はい」をかけていて、二はいの二は「二つ返事」で「はい」をするところからです。
- ・私たちの班では「くらい」という意見と「二本」という意見が出ました。二本という意見は二本という少量のカン耐ハイを飲んだだけで、そういう重大なことを言うのは、なんか女心でもどかしい感じがします。でも二本だったら一本とかでもいいんじゃないかという意見が出たので、私たちのグループとしては「くらい」の方が合っているんじゃないかという意見になりました。「くらい」というのはカン耐ハイを飲んだくらいで、嫁になれというすごい重大なことを口にしてしまっているのかという女心を表していると思います。

E きつくきつく私の鑄型をとるように君は最後の(抱擁)をする

- ・僕たちのグループのところも「抱擁」で、理由は「私の鑄型をとるように」というのが抱きしめるということの比喩表現だと考えたからです。
- ・私たちの班では「抱擁」が入ると思って、その内容はEの短歌の中に「きつくきつく」とか、抱擁をイメージするような言葉もあったし、「最後の抱擁をする」ということで別れを惜しんで抱擁していることがわかるので抱擁になりました。

## 2年生の感想（「説明する」ということを中心に）

- ・F君みたいに、理由を一つでなく二つ以上言ってくれると分かりやすく、すぐに理解することができた。そして、根拠を丁寧に説明し、分からない人がいないような説明をしていた。結論（あてはまる語）を先に言い、理由を具体的な例を出しながら話していたのが分かりやすかった。
- ・上手だと思った説明は、その人が頭の中に描いている情景を細かく具体的に伝えていた。だから、聞いている人が共感できたのだと思った。
- ・その短歌の他の部分の言葉からどのように（ ）の言葉を連想していったかを細かく説明していた。例えばAさんは、（ ）という言葉で始まる五十音から五十音の初めの音の「あ」と「い」という意味と、「つくつくぼうし」から夏の終わりを連想し、恋の終わりまで考えていた。
- ・Nさんの説明が、全く考えてもみなかったことだったが、分かりやすかった。「我」の鋳型を「君」がとるから、二人が触れ合っていて、なおかつ「きつくきつく」抱きしめているから、「抱擁」と話していて、具体的で順序があり分かりやすかった。
- ・Bの歌のBさんの説明がとてもシンプルで良かった。説明をしていると、だんだん長くなってきて結局何を言いたいのか分からなくなったりということはよくあるので、短くても分かりやすい説明の方がいいと思った。
- ・一文にだらだらと内容を詰め込むと意味が伝わりにくいと分かった。文はなるべく短くきり、まとまりが分かるように説明したいと思った。
- ・説明するときの一つの意見を言うのではなく、いくつかの考えを言って「〇〇は△△だから違うと思ったので、××があてはまると思います。」などと言った方が説得力がある。
- ・意見が二つあがった場合に一つだけ言うのではなく、二つとも理由を加えて反論も交えながら説明するという班があって良いと思いました。
- ・自分で別のシーンに置き換えて、自分だったら好きなものや楽しみはとっておく、という自分のことが示されていて、その言い方はとても分かりやすかった。前の言葉や文脈を見て、「こうだから」と言っていることが分かりやすかった。
- ・具体例を挙げたり、短歌の中の言葉を使って根拠を示しながら話すと分かりやすい。
- ・例やたとえを挙げて説明していて、イメージしながらそれを聞くと、とても分かりやすかった。
- ・説明者が言った言葉に対して、周りの人が付け加えなどしたら、さらに詳しく「なるほど」という人が増えるなあと思いました。

## 考察

2年生は、予想通り個人差が大きく、（ ）に何をあてはめていいか全くわからないという生徒から、興味・関心をもって楽しんでいる生徒まで様々であった。しかし、個人では難しくても、4人グループになると、お互いに知恵を絞りながら熱心に討論する姿が見られた。

授業の最初に、（ ）にあてはまる言葉の正解を求めることよりも、自分（たち）がイメージした歌の世界を、いかに相手に分かりやすく説明するかを本時の目標としたいと提示した。そのため、生徒達は発表を聞くとき、説明のしかたにこだわって聞いていたように思われる。また、説明する生徒は恋愛の歌の内容を話すことに恥じらいを見せながらも、いつもより発表態度に気を遣ったり、少しでも長く話そうと努力している姿が見られた。「説明する」という活動を教師側も生徒側も意識できる機会を増やしていくことが大切だと痛感した。

#### 4. 成果や今後の課題

今年度は2種類の「説明する」活動を実践した。3学年とも同じ題材、指導案での授業を試みたので、教師側として本校の生徒の「説明する」という能力の現状や傾向について、多少なりともつかむことができたのではないかと考えている。

まず、10月に実施した言語活動Ⅰの実践では、同学年の友達に説明するという設定だったので、相手意識はあまりなかったが、学年による違いや「説明する」という活動でどのような内容や方法を提示すればよいかなど今後の研究を進めていく上で参考になった。どの学年も各グループの話し合いでは活発な意見交換が行われ、数学で学習した言葉を駆使しながら、どう説明したら相手のグループに分かりやすく伝えられるか予定時間をオーバーしても相談していた。上級学年になるほど、高度な用語を使用しており、教科を超えた知識との関連もうかがえた。相手のグループに説明する場面では、「聞き返さない」という指示を出していたものの、グループによっては会話のやり取りがあったようだ。見方を変えれば、わかりやすく伝えるためには、お互いのコミュニケーションが大切だということと言えるのではないだろうか。2年生、1年生、3年生という順で授業実践したが、3年生の説明は他学年と比較してみると、文が短くなっていた。これは、活動の中で、できるだけ簡潔に表現するようという指示を出したためである。ただ、説明のしかたそのものにはほとんど違いがないと言って良い。しかし、3年生は説明を聞いて描く絵の出来が他学年よりも良かった。これは3年生は他学年よりも説明を理解する力が勝っていたということと言えると考えられる。

11月27日の中間研究意見交換会では、金沢大学准教授の折川先生から次のような指導・助言をしていただいた。「発信者と受信者。お互いの持っているイメージは実際には一致しない。『ノイズ』が入る。そこで、『その子にとってノイズはどのようなものなのか』を考えることが大切である。情報の格差かもしれない。発信者の説明が下手なのかもしれない。聞き手が下手なのかもしれない。あるいは発信者が理解していないのかもしれない。そのノイズを軽減できれば理想的なコミュニケーションができるのではないか。『どうすればノイズを削減できるか』を生徒に考えてもらいたい。『相手意識』というものが大切になってくる。受信者メイン、つまり聞き手主導のコミュニケーションもあるのではないか。学校は『説明のしかた』に偏りがちだが、受信者の反応を受け止めて発信していく大切さに切り込んでいく、言葉の重要性に気づかせるという面もあるのではないか。さまざまな情報を重ね合わせ、還元させていきながらコミュニケーションを行っていく、ということの有効性の理解を生徒の中に確立させていきたい。」

次に、2月に実施した言語活動Ⅱの実践では、1年生と3年生は交流授業を実施したが、同学年内で実施した2年生と比較して、お互いに相手意識を持つことができたようである。特に、1年生は3年生に対する説明では、丁寧な言葉遣い、態度を意識したという生徒が多かった。1年生は3年生の説明に刺激を受けた生徒が多かったようである。個人差も大きいですが、総じて学年が上がるにつれて、短歌に対する知識、読み取りの深さの違い、経験の差からか、当てはめた言葉とその理由の説明の内容が短歌に詠まれた背景、情景とそのときの作者の気持ちを想像して説明したものが多いように思われた。

今後、「説明する」課題を考える際には、「より実生活に近くなるような学習活動」を念頭に置きつつ、わかりやすさの要素を盛り込めるような課題を工夫していきたい。話し言葉によって説明するときには、このような要素もちろん大切ではあるが、声量・抑揚・間の取り方など、音声そのものも大切になってくる。また、表情や身振りなど言語に関わらない要素も相手に伝えるというときには大切なものである。これらの要素をいかに効果的に活用できるようにさせるかということも考えつつ、今後の学習活動を進めていきたい。